

2025年1月期
決算説明資料

不二電機工業株式会社

2025年3月11日
東証スタンダード市場
証券CD:6654

目次

1 . 2025年1月期(期末)決算概要(損益計算書)	3P
2 . 2025年1月期(期末)決算概要(製品群別)	4P
3 . 2025年1月期(期末)決算概要(売上高内訳)	9P
4 . 2025年1月期(期末)決算概要(貸借対照表)	10P
5 . 2025年1月期(期末)決算概要(キャッシュ・フロー計算書)	11P
6 . 2025年1月期(期末)設備投資	12P
7 . 2025年1月期(期末)財務指標	13P
8 . 2025年1月期(期末)マーケットシェア	14P
9 . 2025年1月期(期末)決算概要(市場別売上)	15P
10 . 2026年1月期(期末)業績予想(損益計算書)	17P
11 . 2026年1月期(期末)業績予想(製品群別売上高)	18P
12 . 株主還元	19P

参考資料

1. 2025年1月期(期末) 決算概要(損益計算書)

単位(百万円)

	2024年1月期	2025年1月期	増減額	増減率
売上高	3,723	3,927	+203	+5.5%
売上総利益	1,324	1,249	△74	△5.6%
販管費	924	947	+22	+2.5%
営業利益	399	302	△97	△24.4%
経常利益	425	346	△78	△18.5%
当期純利益	349	240	△109	△31.3%
1株あたり利益	63.05円	43.94円	△19.11円	△30.3%

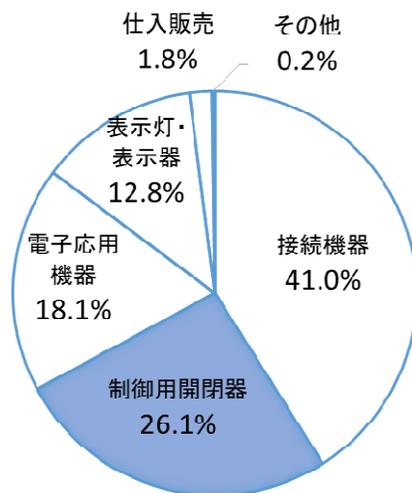
【決算概要】

- ◆ 売上高は、制御用開閉器、接続機器、表示灯・表示器で増収、電子応用機器、仕入販売で減収の結果、前年同期比5.5%増の3,927百万円
- ◆ 当期純利益は、製造原価及び販管費の増加に加え、2024年1月期計上の投資有価証券売却益がなくなった為、前年同期比31.3%減の240百万円

2. 2025年1月期(期末) 決算概要(製品群別)

制御用開閉器

単位(百万円)



売上構成比

	2024年 1月期	2025年 1月期	増減額	前期比
売上高	919	1,027	+107	111.7%
受注高	992	1,022	+29	103.0%
受注残高	423	418	△4	98.9%



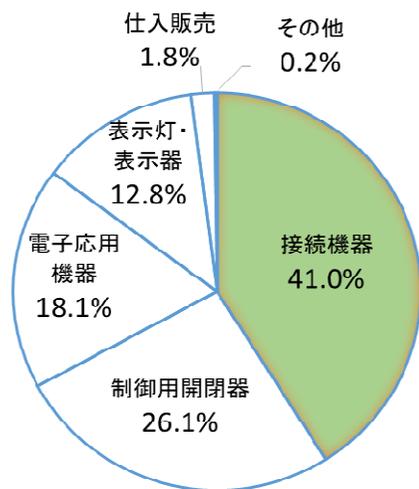
売上高 補助スイッチ、鉄道車両用スイッチが増加

受注高 同上

2. 2025年1月期(期末) 決算概要(製品群別)

接続機器

単位(百万円)



売上構成比

	2024年 1月期	2025年 1月期	増減額	前期比
売上高	1,532	1,609	+77	105.0%
受注高	1,483	1,564	+81	105.5%
受注残高	319	274	△44	86.0%



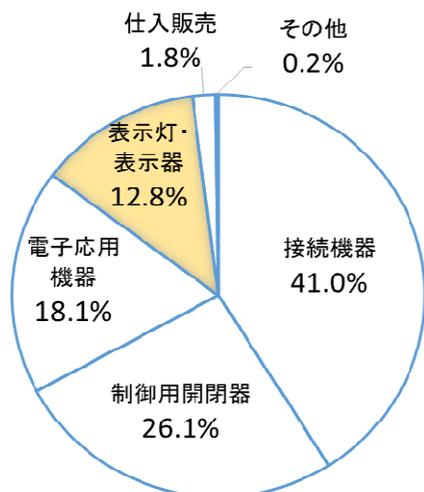
売上高 汎用端子台、コネクタ端子台が増加、
大電流接触子が減少

受注高 汎用端子台、コネクタ端子台、
サージアブソーバ端子台が増加

2. 2025年1月期(期末) 決算概要(製品群別)

表示灯・表示器

単位(百万円)



売上構成比

	2024年 1月期	2025年 1月期	増減額	前期比
売上高	436	501	+64	114.8%
受注高	557	406	△151	72.9%
受注残高	276	181	△95	65.5%



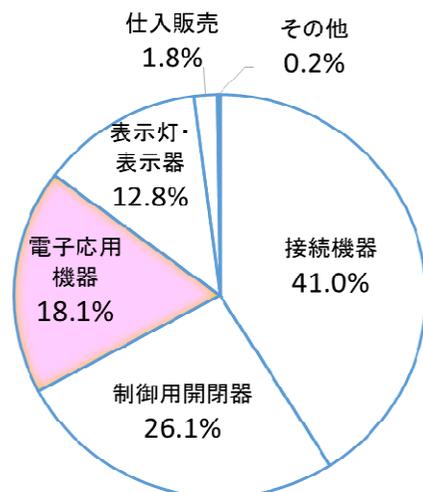
売上高 各種表示器、鉄道車両用表示灯が増加

受注高 各種表示器、鉄道車両用表示灯が減少

2. 2025年1月期(期末) 決算概要(製品群別)

電子応用機器

単位(百万円)



売上構成比

	2024年 1月期	2025年 1月期	増減額	前期比
売上高	724	709	△14	98.0%
受注高	581	485	△96	83.5%
受注残高	431	207	△223	48.1%



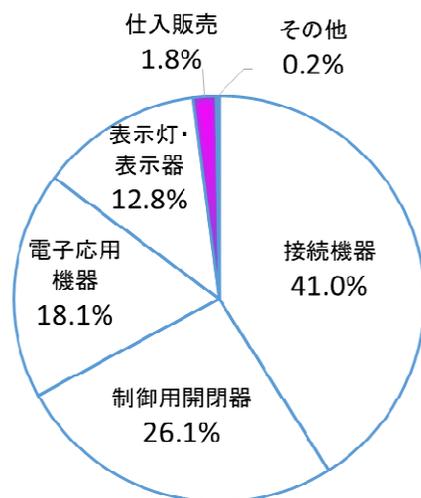
売上高 I/Oターミナルが増加、テレフォンリレーが減少

受注高 I/Oターミナル、テレフォンリレーが減少

2. 2025年1月期(期末) 決算概要(製品群別)

仕入販売、その他

単位(百万円)



売上構成比

	2024年 1月期	2025年 1月期	増減額	前期比
売上高	110	79	△ 30	71.9%
受注高	128	18	△ 109	14.6%
受注残高	70	10	△ 60	14.6%

売上高 太陽光発電設備向けが減少

受注高 仕入販売事業終息

3. 2025年1月期(期末) 決算概要(売上高内訳)

単位(百万円)

既存/新製品売上高	2024年1月期		2025年1月期	
	売上高	売上高比率	売上高	売上高比率
既存製品 ^(※)	3,411	94.4%	3,630	94.3%
新製品 ^(※)	201	5.6%	217	5.7%
国内/海外売上高				
国内	3,367	90.4%	3,543	90.2%
海外	355	9.6%	383	9.8%

(※)仕入販売・その他を除く

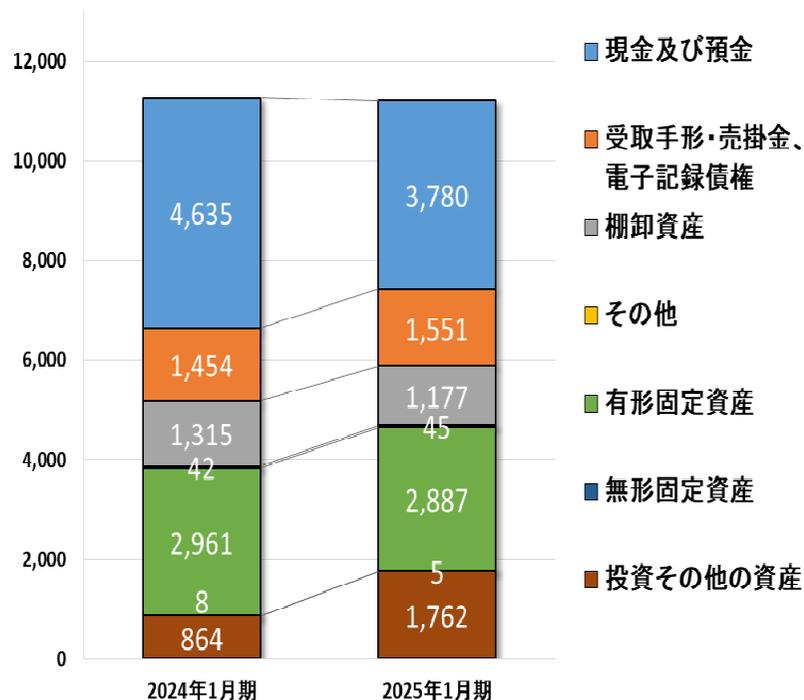
【決算概要】

- ◆ 新製品では I / Oターミナル(電子応用機器)、無停電用交換コネクタ(接続機器)が好調
- ◆ 海外売上高は鉄道車両用表示灯(表示灯・表示器)が好調

4. 2025年1月期(期末) 決算概要(貸借対照表)

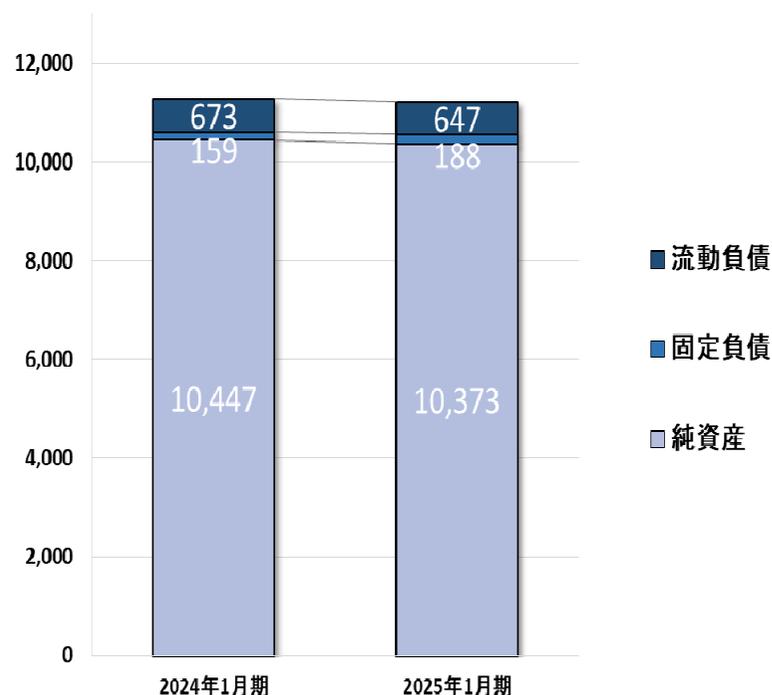
単位(百万円)

資産



単位(百万円)

負債・純資産



- ◆ 投資有価証券 403百万円増
- ◆ 現金及び預金 855百万円減

- ◆ 利益剰余金 169百万円減(自己株式の消却等の影響)
- ◆ その他有価証券評価差額金 99百万円増

5. 2025年1月期(期末) 決算概要 (キャッシュ・フロー計算書)

単位(百万円)

	2024年1月期	2025年1月期	増減額	2025年1月期の主な内訳
営業活動による キャッシュ・フロー	446	423	△23	税引前当期純利益 346 減価償却費 199 売上債権の増加 △97
投資活動による キャッシュ・フロー	△103	△360	△257	投資有価証券の取得 △259 有形固定資産の取得 △112
財務活動による キャッシュ・フロー	△178	△417	△239	配当金の支払額 △193 自己株式の取得 △224
現金及び現金同等物の 増減額	3	0	△2	—
現金及び現金同等物の 期首残高	1,166	1,335	+168	—
現金及び現金同等物の 期末残高	1,335	980	△355	—

6. 2025年1月期(期末) 設備投資

単位(百万円)

	2024年1月期	2025年1月期	増減額	増減率
設備投資	125	124	△1	△1.0%
減価償却費	215	199	△15	△7.3%

【2025年1月期の主な設備投資】

・生産自動化設備	35百万円	・金型投資	32百万円
・文書管理システム	11百万円	・受電設備	6百万円

7. 2025年1月期(期末) 財務指標

	2024年1月期	2025年1月期	増減 ポイント	算式
自己資本比率(%)	92.5	92.5	0.0	自己資本/総資産
自己資本利益率(ROE)(%)	3.4	2.3	△1.1	当期純利益/ (前期+当期自己資本)÷2
総資産当期純利益率(ROA)(%)	3.2	2.1	△1.1	当期純利益/ (前期+当期総資産)÷2
売上高経常利益率(%)	11.4	8.8	△2.6	経常利益/売上高
株価収益率(PER)(倍)	18.6	24.0	+5.4	株価/1株当たり利益
株価純資産倍率(PBR)(倍)	0.6	0.5	△0.1	株価/1株当たり純資産

8. 2025年1月期(期末) マーケットシェア

単位(%)

	2024年1月期	2025年1月期	増減ポイント
カムスイッチ	51.1	49.0	△2.1
押しボタンスイッチ	0.6	0.7	+0.1
その他のスイッチ	14.1	13.1	△1.0
端子台	6.6	7.3	+0.7
表示灯	5.1	5.2	+0.1
アナンシエータ リレー	15.2	12.2	△3.0
その他の制御用 専用機器	9.7	10.7	+1.0

- (注) 1. 当社製品でNECA(一般社団法人日本電気制御機器工業会)の「出荷統計」品目に合致するものについて、出荷金額の比較によりマーケットシェアを算出しております。
2. 統計期間は、通期でNECA(4月～3月)と当社(2月～1月)において期間が相違しておりますが、比較の為、NECAの統計数字を当社期間に合わせ修正しております。

9. 2025年1月期(期末) 決算概要(市場別売上)

重点市場の実績(2025年1月期) ~ 今後の市場見通し

(1) 重電機器市場

<電力>

実績 102.7%(前年同期比)

✓ 計画的な設備投資が継続

- ✓ 一部顧客で電子部品の長納期化対策として手配された在庫の消化に時間を要する状況から発注調整が継続。
- ✓ 送電網の増強による設備投資に期待。デジタル化に追随した新製品の提案を推進。

<公共・民需>

実績 102.6%(前年同期比)

✓ 省工数関連製品の拡大

- ✓ 公共関係は堅調に推移。民需関係は大規模都市開発や物流倉庫、データセンター向け省工数製品の引合い増加。
- ✓ 建築・物流業界を中心とした人手不足の高まりを受け、顧客設備計画の工期延長が懸念。

<鉄道変電>

実績 110.1%(前年同期比)

✓ 既設更新案件が再開

- ✓ 鉄道用変電所(既設更新)案件の再開により、注残の遅れが解消。新規受注が進む。
- ✓ 鉄道事業者の業績回復を受けた設備計画の見直しに期待。デジタル化に追随した新製品の提案を推進。

9. 2025年1月期(期末) 決算概要(市場別売上)

重点市場の実績(2025年1月期) ~ 今後の市場見通し

(2) 鉄道車両市場

実績 125.8%(前年同期比)

✓ 新規及びリピート案件の拡大

✓ 新型車両の生産数は低調な状況が25年度も継続。

✓ ワンマン化対応製品など省人化ニーズへの提案を推進。
新型車両において省施工に寄与する配線付製品を提案。

(3) 海外市場

実績 107.8%(前年同期比)

✓ 主軸の東アジアと中東が回復

✓ パートナー商社と連携した現地企業とのアライアンス
強化の継続及び開拓。

✓ 物価上昇下でも品質重視の市場への特化。

10. 2026年1月期 業績予想(損益計算書)

単位(百万円)

	2025年1月期	2026年1月期	増減額	増減率
売上高	3,927	3,840	△87	△2.2%
売上総利益	1,249	1,303	+53	+4.3%
販管費	947	1,036	+88	+9.3%
営業利益	302	267	△34	△11.5%
経常利益	346	297	△49	△14.2%
当期純利益	240	206	△33	△14.0%
1株あたり利益	43.94円	38.60円	△5.34円	△12.2%

11. 2026年1月期 業績予想(製品群別売上高)

単位(百万円)

	2025年1月期	2026年1月期	増減額	増減率
制御用開閉器	1,027	1,044	+16	+1.6%
接続機器	1,609	1,664	+54	+3.4%
表示灯・表示器	501	487	△14	△2.9%
電子応用機器	709	605	△104	△14.7%
仕入販売 ^(※) ・ その他	79	40	△39	△49.5%
合計	3,927	3,840	△87	△2.2%

(※)仕入販売は、2025年1月期をもって事業を終息

12. 株主還元

	2022年1月期 (64期)	2023年1月期 (65期)	2024年1月期 (66期)	2025年1月期 (67期) 予想	2026年1月期 (68期) 予想
年間配当金	32円	32円	35円(※1)	32円(※2)	32円
配当性向	96.0%	68.4%	55.5%	72.8%	82.9%

(※1) 2024年1月期(66期)の配当金は、創業70周年記念配当金3円を含んでおります。

(※2) 2025年4月24日株主総会において、1株につき16円で決議された場合の年間配当金額を記載しているため、現時点では予想になります。

【配当の基本方針】

- 目標配当性向：50%
- 年2回配当(中間配当(10月上旬)と期末配当(4月下旬))
- 長期的、安定的配当

參考資料

当社の概要

不二電機工業株式会社

事業：電気制御機器の製造販売

代表者：代表取締役社長 八木 達史 新旭工場（滋賀）

創業：1953年（昭和28年）

設立：1958年（昭和33年）

資本金：10億8,725万円

売上高：39億2,744万円（2025年1月期）

本社：京都市中京区

従業員数：254名（2025年1月31日現在）
（パートタイマーを含む）



新旭工場（滋賀）

本社（京都）



東京オフィス
（東京）



琵琶湖



草津製作所（滋賀）



みなみ草津工場（滋賀）

当社製品群

制御用開閉器



接続機器



表示灯・表示器



電子応用機器



4つの
製品カテゴリー

当社製品群

装置・金型製造

3つのM 'Mechatronics' (メカトロニクス)、'Mold' (金型)、'Manpower Saving' (省人化)を掛け合わせ、相互作用による立体的なエンジニアリングを提供します。

M³(エムキューブ)エンジニアリング部

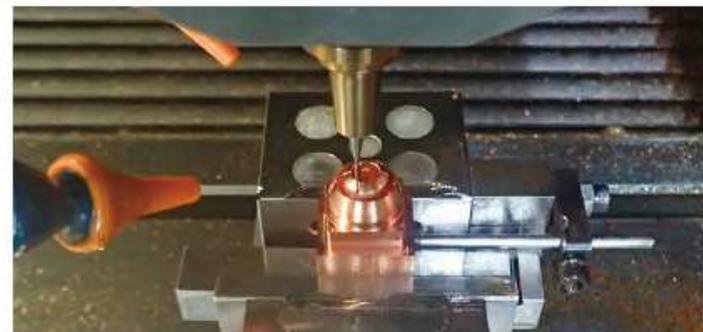
装置製作

汎用ロボットを使った自動化装置をはじめ、各工程に合った補助装置の提案と装置設計・組立を行っています。さらに、自社ブランド装置の製作及び販売を行います。



金型製作

プラスチック成形金型を中心に、新規金型製作や金型のメンテナンスまで幅広く対応を行っています。装置製作で培った技術を応用し市場競争力の高い金型を製作します。



主な市場

人の暮らしを支える社会インフラ向けに **電気制御機器** を提供



重電機器市場における主な製品

発電所・変電所などの
安心・安全な電力供給を
担う設備に使用



配電盤・キュービクル



B/BHシリーズ

切替スイッチ・操作スイッチ

B/BHシリーズをはじめとする当社のカムスイッチは、電流計・電圧計用の切替スイッチや遮断器の操作スイッチなど、様々な用途でご使用いただいております。豊富な操作機構と接点構成でお客様の多様なニーズにお応えいたします。

端子台

当社端子台は、信号レベルから大電流まで幅広い電流容量に対応しております。また、耐圧試験やシーケンス試験用の治具を使用することができるTJシリーズなど、付加価値を有した端子台も数多く取り揃えております。



TJシリーズ

TXシリーズ



ATTシリーズ

KTTシリーズ

試験用端子

計器などの指示校正や試験に用いられる製品です。とりわけ差込式のKTTシリーズは30年以上の販売実績を誇るベストセラー製品で、CT回路用は回路が開放しない安全構造を採用しております。

公共施設(水処理施設等)や
太陽光発電設備にも使用



コントロールセンタ

断路部(ジャック)

コントロールセンタを構成するユニットの主回路電源側及び負荷側の断路部に、当社製品をご採用いただいております。電流容量や母線ピッチ、接続方向など各種ニーズに対応した構造を用意しております。



PDSシリーズ(主回路側)

KJシリーズ(主回路側)

MEJAシリーズ(負荷側)

SJシリーズ(負荷側)

再生可能エネルギー発電設備



遮断端子台(開閉器)

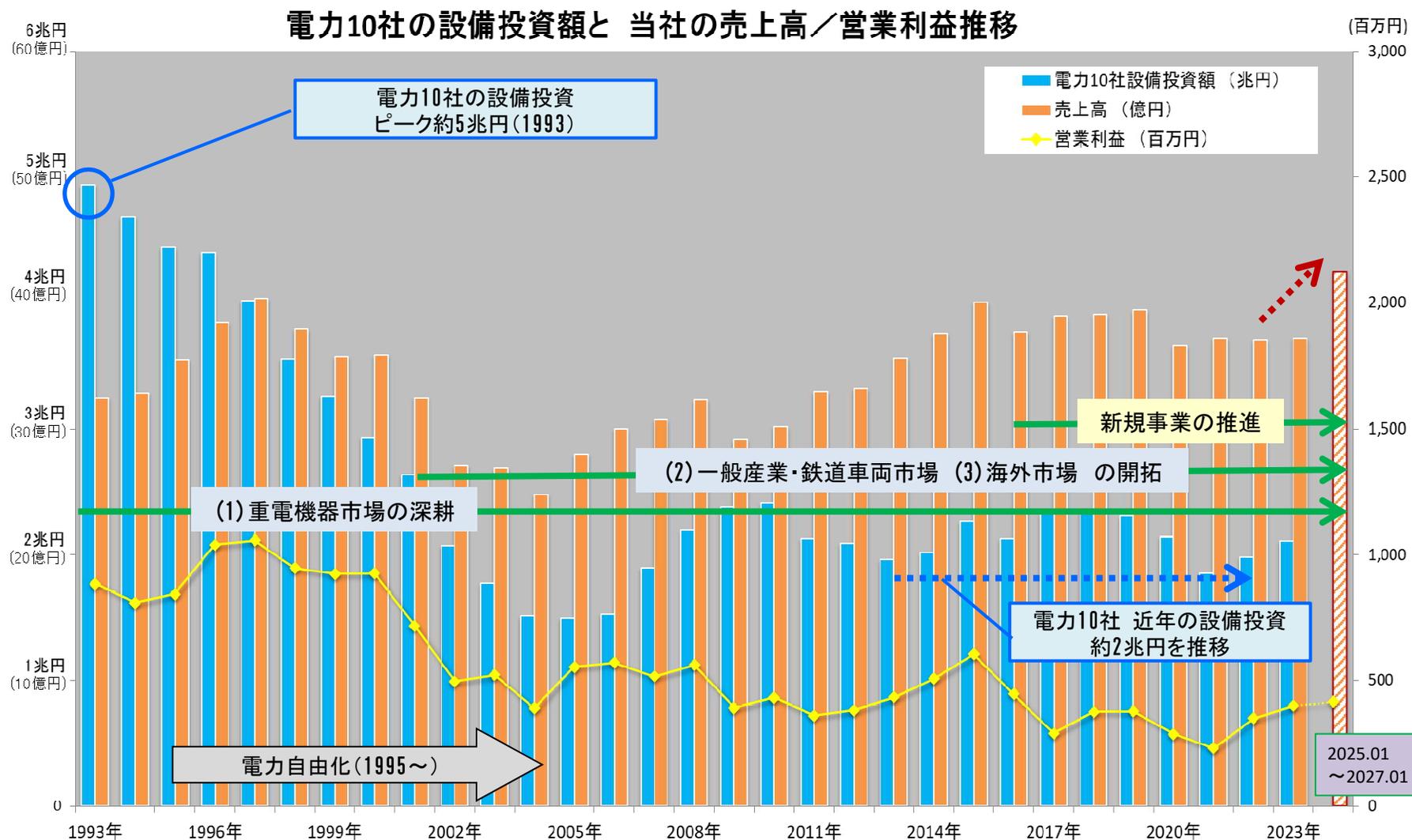
太陽電池ストリングを配線する開閉器に使用されております。SDHシリーズは、DC1000V、13A[※]の遮断能力を有しておりますので安全なメンテナンスに貢献しております。また端子台と同じくDINレールに搭載可能です。

※使用負荷種別: DC-21Bの場合

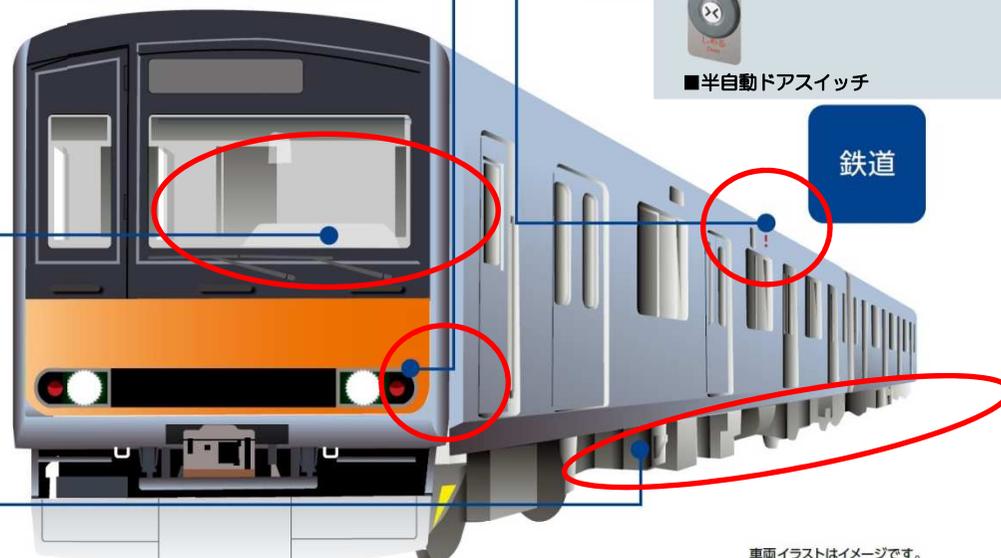


SDHシリーズ

電力会社の設備投資と当社売上高

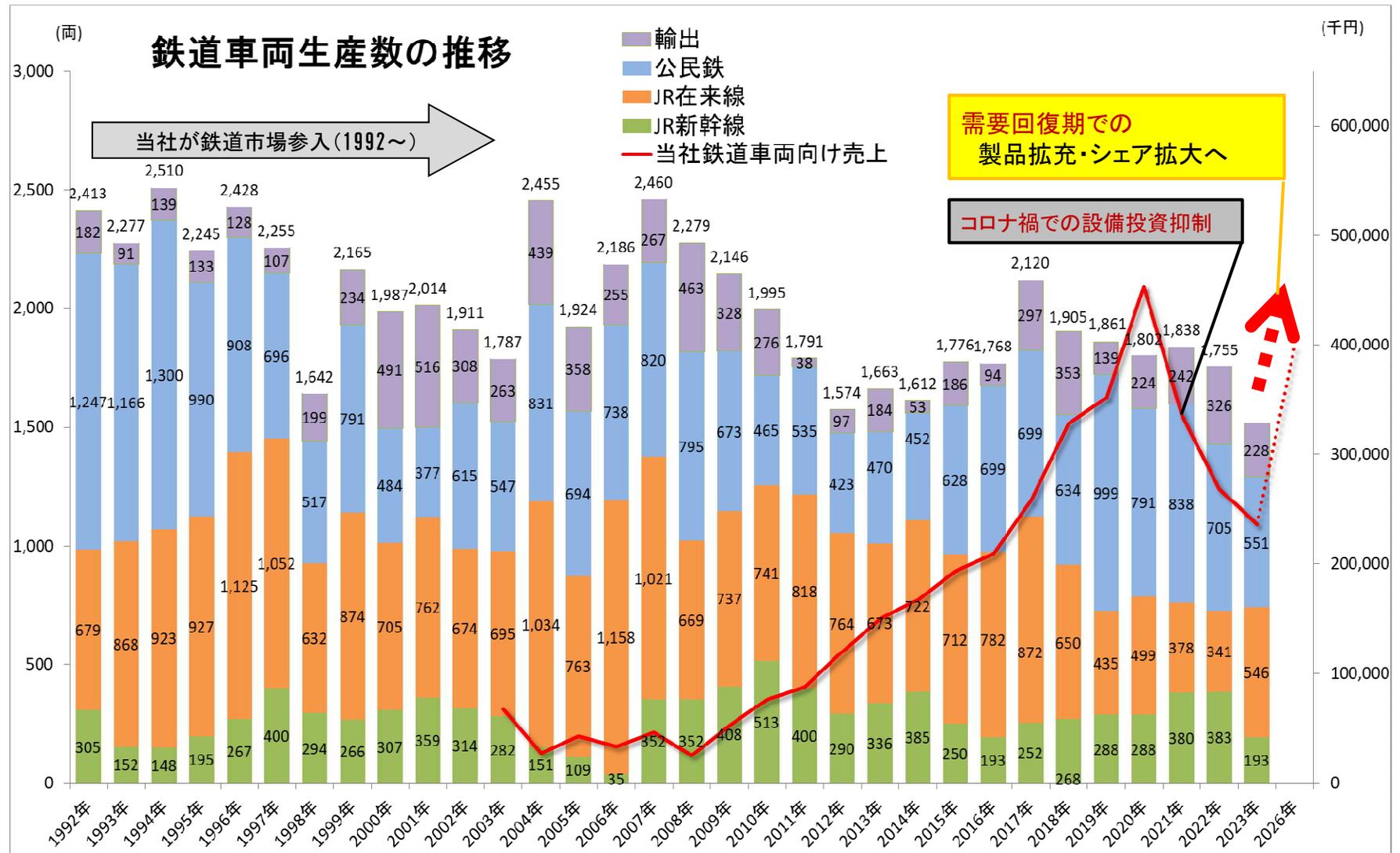


鉄道車両市場における主な製品



車両イラストはイメージです。

鉄道車両生産数と当社売上高



注意事項

本資料は情報提供を目的として作成しているものであり、当社株式の購入等の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料にて開示されている資料は、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれております。

この将来予測に基づく記載は、景気動向、マーケット状況、その他潜在的なリスクや不確定要素を含みます。

本資料は、現時点までに入手可能な情報及び将来の経営環境等の前提に基づいており、実際の結果が、今後様々な要因により、記載されている将来見通しとは大きく異なる場合があることをご承知おきください。

また、本資料の情報に関しては、万全を期しておりますが、その情報の正確性及び確実性を保証するものではありません。当社は記載された情報又はデータの誤り、不正確に関して一切責任を負うものではありません。

予告なしに内容が変更又は廃止される場合があります。